

厚木市生涯学習推進計画に係る
意向調査結果報告書
概要版

令和8年1月

厚 木 市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
II	小学生および中学生調査結果.....	2
III	市民調査結果.....	6
IV	調査結果のまとめ.....	19
1	小中学生調査.....	19
2	市民調査.....	20

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、市民の生涯学習に関する意識の変化や実態を的確に把握し、令和9年度を始期とする次期厚木市生涯学習推進計画を策定するための基礎データとし、今後の施策展開に向けた課題を抽出することを目的に実施したものです。

2 調査対象

小学生調査：厚木市立 23 小学校に通う小学5年生

中学生調査：厚木市立 13 中学校に通う中学2年生

市民調査：厚木市内に在住する 16 歳以上の市民（外国人住民を含む）

3 調査期間

小学生調査：令和7年9月3日～令和7年9月30日

中学生調査：令和7年9月3日～令和7年9月30日

市民調査：令和7年9月5日～令和7年9月30日

4 調査方法

郵送配布・回収及びWEBフォームによる回答

5 回収状況

	配布数	回収数	回収率
小学生	1,747件	947件	54.2%
中学生	1,750件	1,418件	81.0%
市民	3,000件	746件	24.9%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

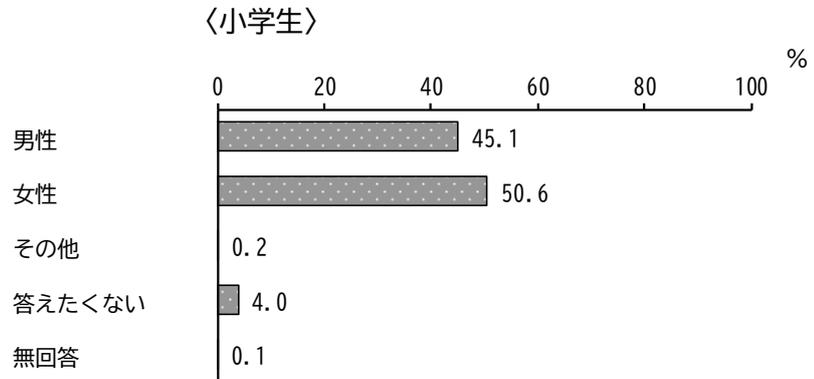
Ⅱ 小学生および中学生調査結果

問 あなたの性別を教えてください。

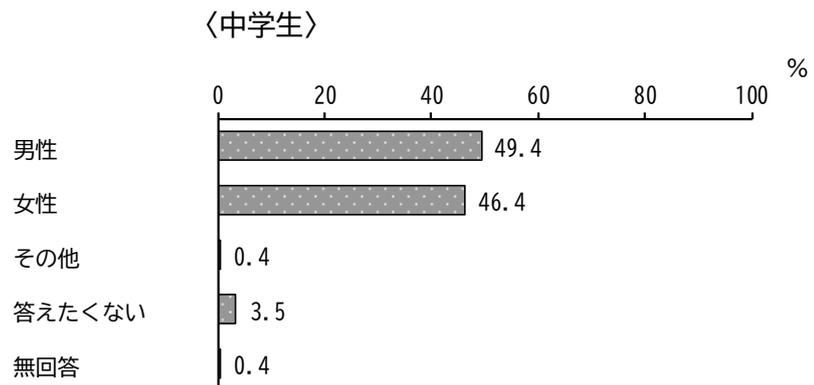
小学生では「男性」の割合が45.1%、「女性」の割合が50.6%となっています。

中学生では「男性」の割合が49.4%、「女性」の割合が46.4%となっています。

回答者数 = 947



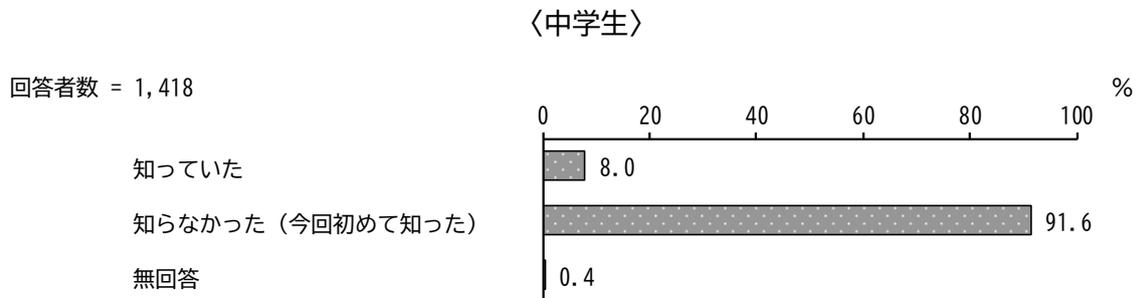
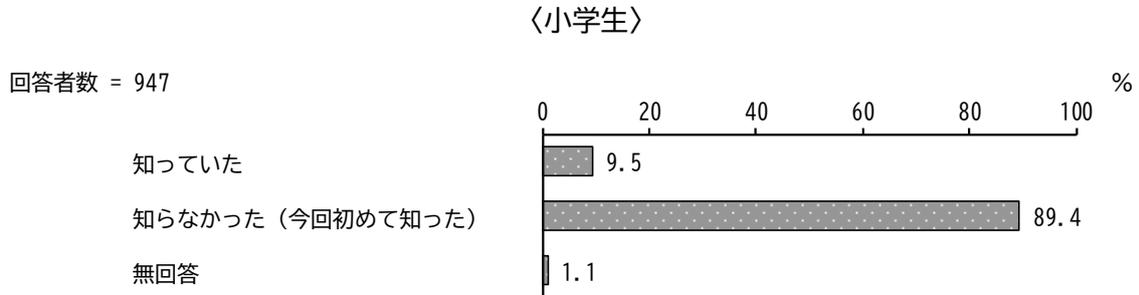
回答者数 = 1,418



問 あなたは、「生涯学習」という言葉を知っていましたか。(1つ選んでください)

小学生では、「知っていた」の割合が9.5%、「知らなかった(今回初めて知った)」の割合が89.4%となっています。

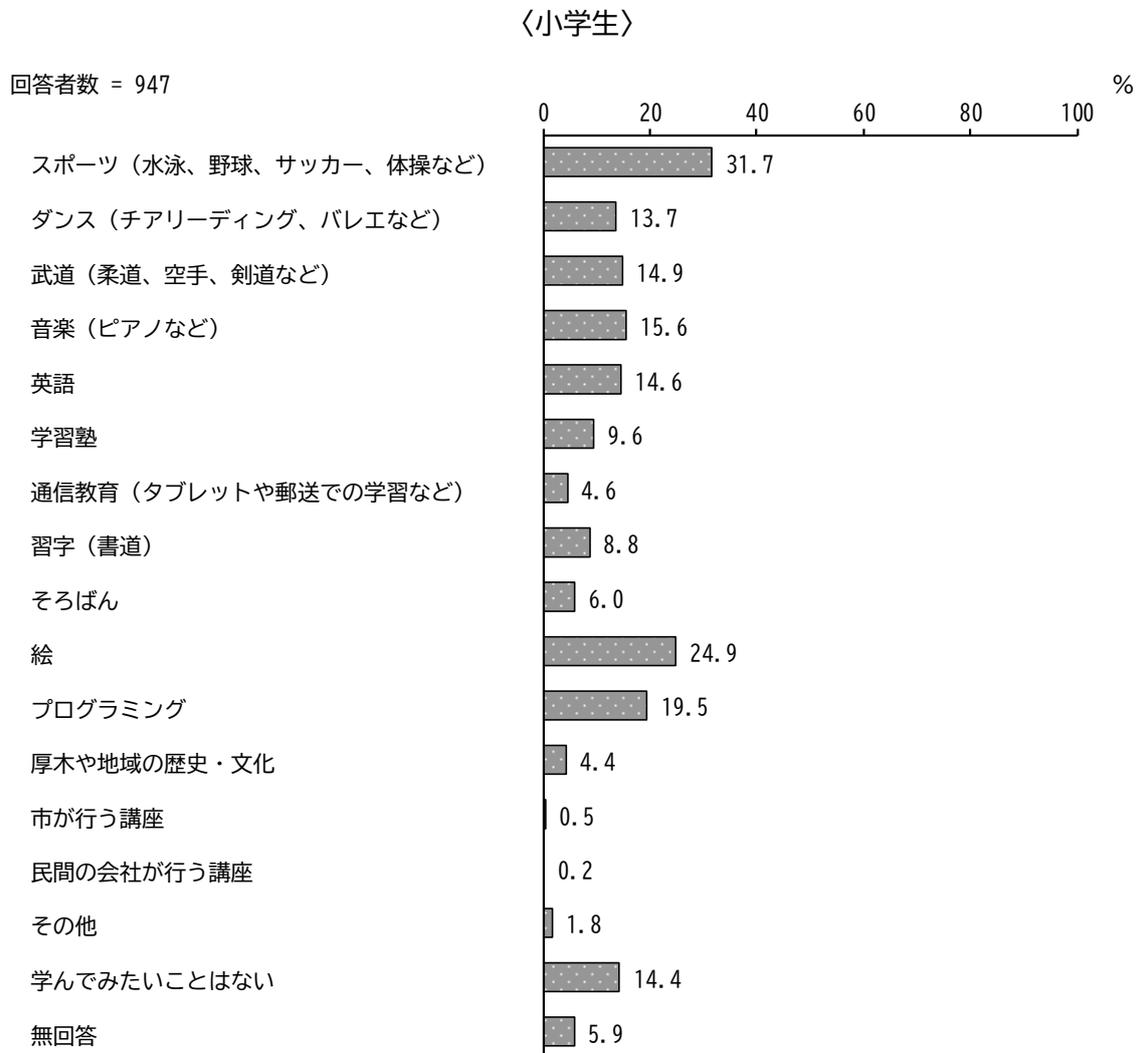
中学生では、「知っていた」の割合が8.0%、「知らなかった(今回初めて知った)」の割合が91.6%となっています。



問 今後、学校以外で、学んでみたいと思うことは何ですか。(いくつ選んでもOK)

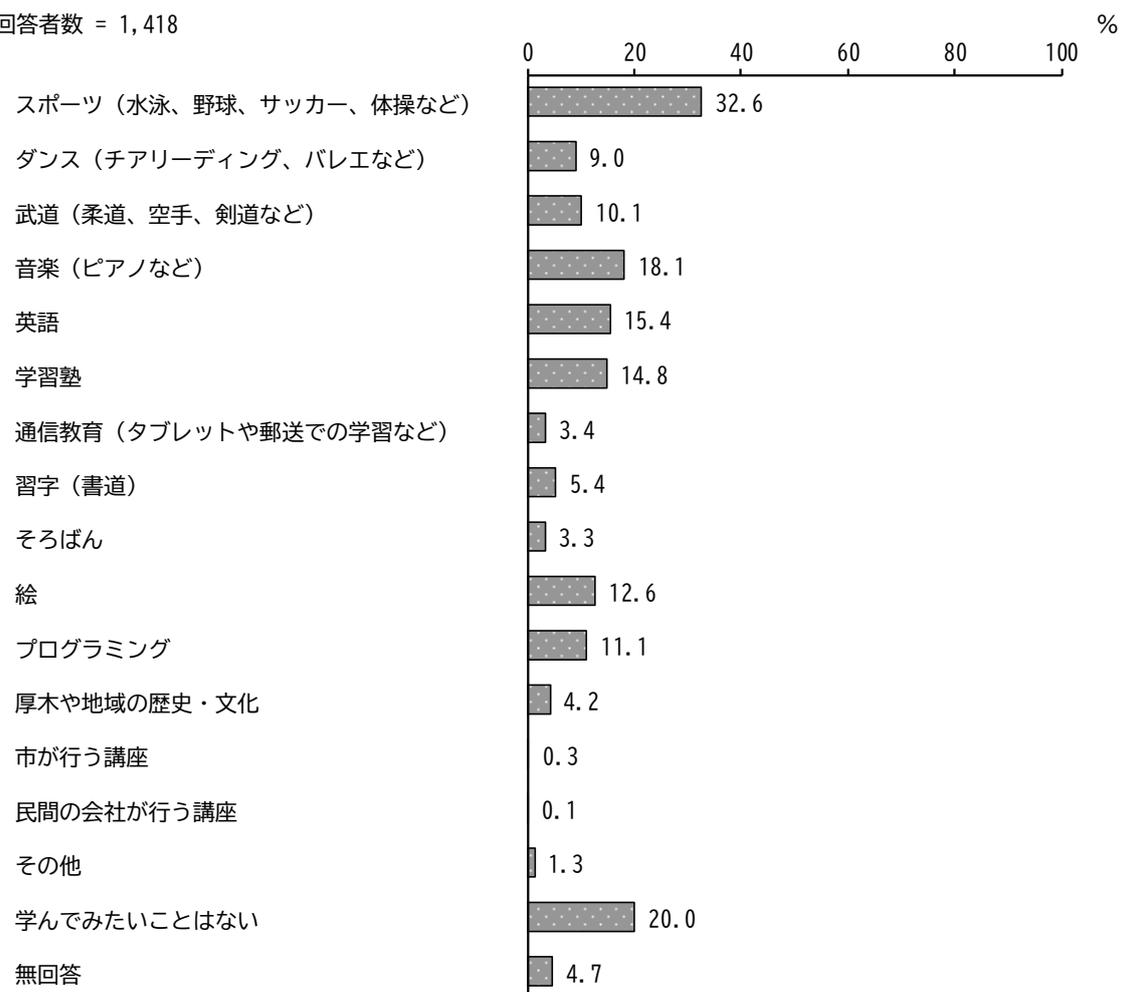
小学生では、「スポーツ（水泳、野球、サッカー、体操など）」の割合が 31.7%と最も高く、次いで「絵」の割合が 24.9%、「プログラミング」の割合が 19.5%となっています。

中学生では、「スポーツ（水泳、野球、サッカー、体操など）」の割合が 32.6%と最も高く、次いで「音楽（ピアノなど）」の割合が 18.1%、「英語」の割合が 15.4%となっています。



〈中学生〉

回答者数 = 1,418



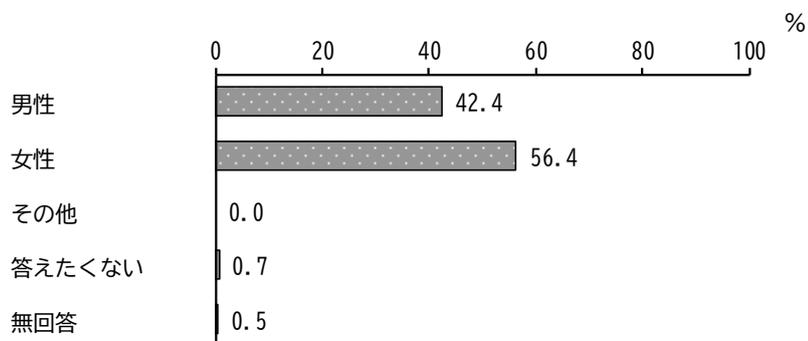
Ⅲ 市民調査結果

1 回答者について

問 あなたの性別について聞かせてください。(1つを選択)

「男性」の割合が42.4%、「女性」の割合が56.4%となっています。

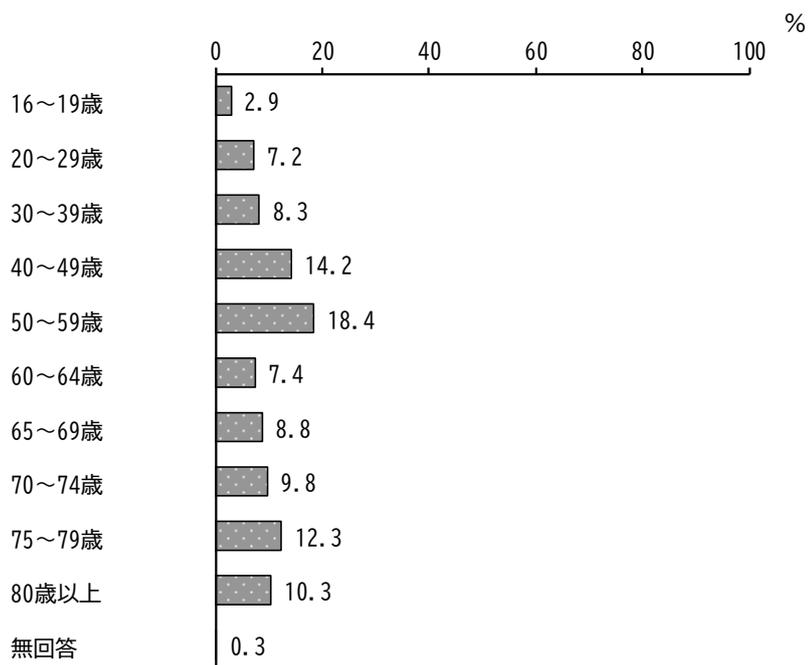
回答者数 = 746



問 あなたの年齢についてお聞かせください。(1つを選択)

「50～59歳」の割合が18.4%と最も高く、次いで「40～49歳」の割合が14.2%、「75～79歳」の割合が12.3%となっています。

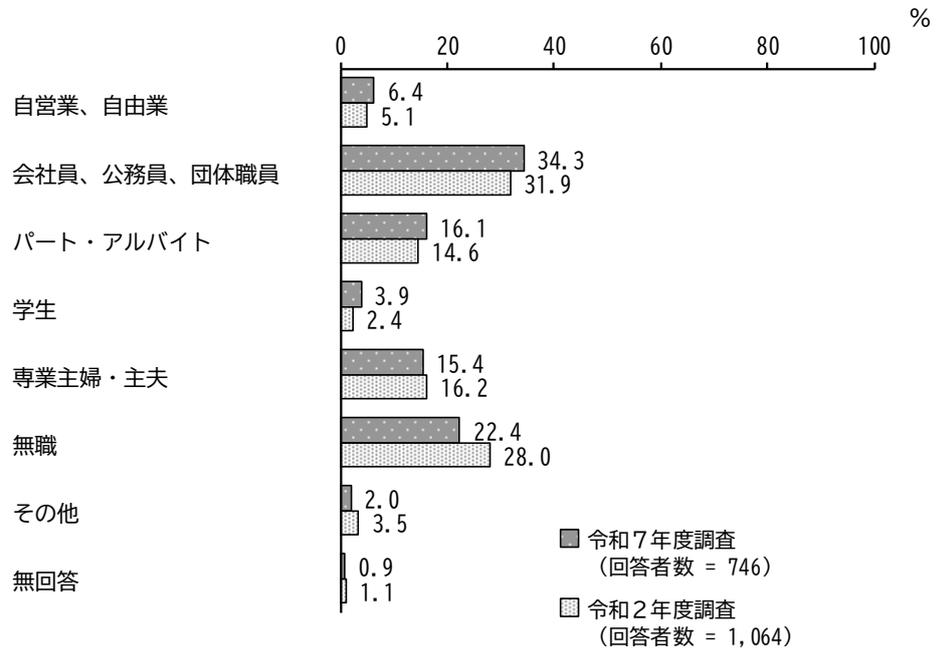
回答者数 = 746



問 あなたの職業について、お聞かせください。(複数選択可)

「会社員、公務員、団体職員」の割合が34.3%と最も高く、次いで「無職」の割合が22.4%、「パート・アルバイト」の割合が16.1%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「無職」の割合が減少しています。

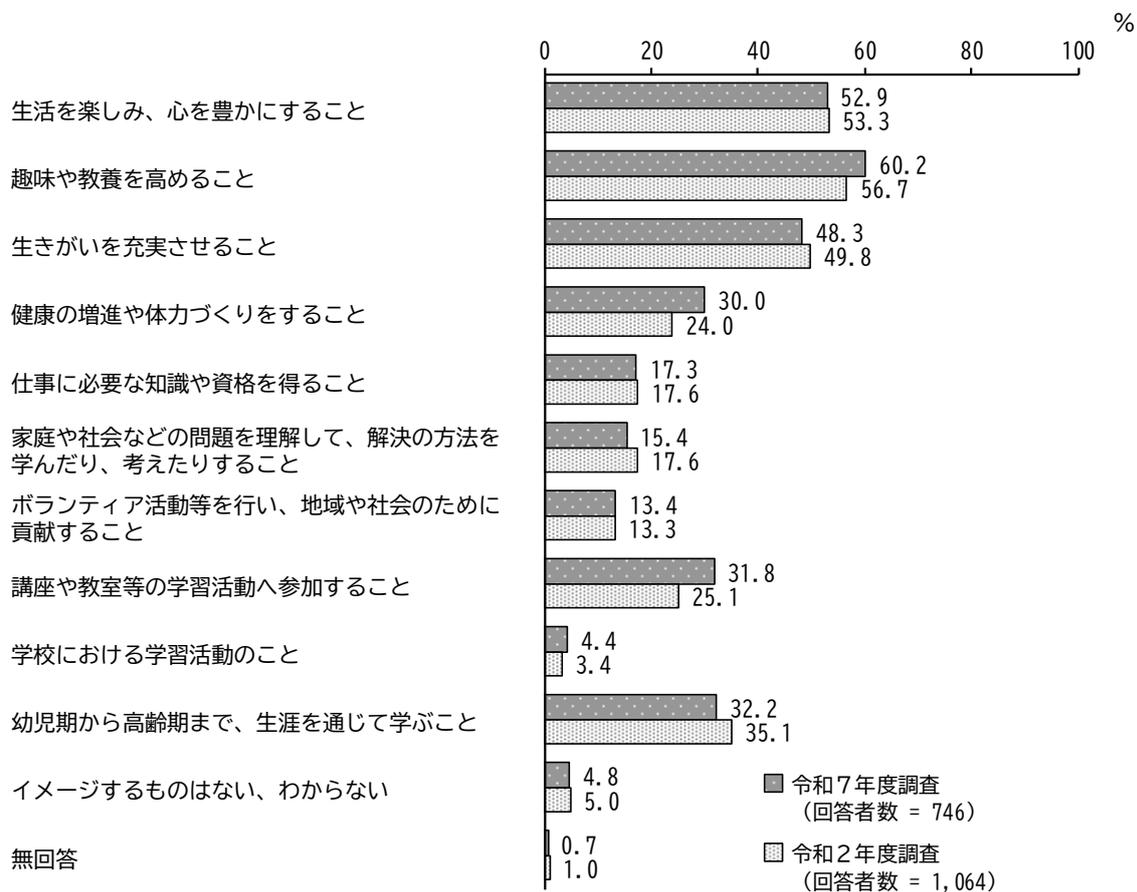


2 生涯学習について

問 「生涯学習」ということばから、どのようなイメージを持ちますか。(複数選択可)

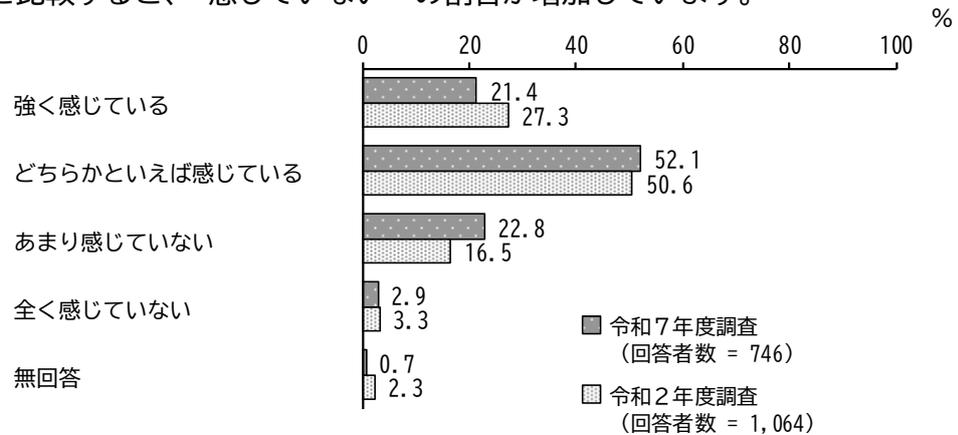
「趣味や教養を高めること」の割合が60.2%と最も高く、次いで「生活を楽しみ、心を豊かにすること」の割合が52.9%、「生きがいを充実させること」の割合が48.3%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「健康の増進や体力づくりをすること」「講座や教室等の学習活動へ参加すること」の割合が増加しています。



問 あなたは日頃から生涯学習の必要性を感じていますか。(1つを選択)

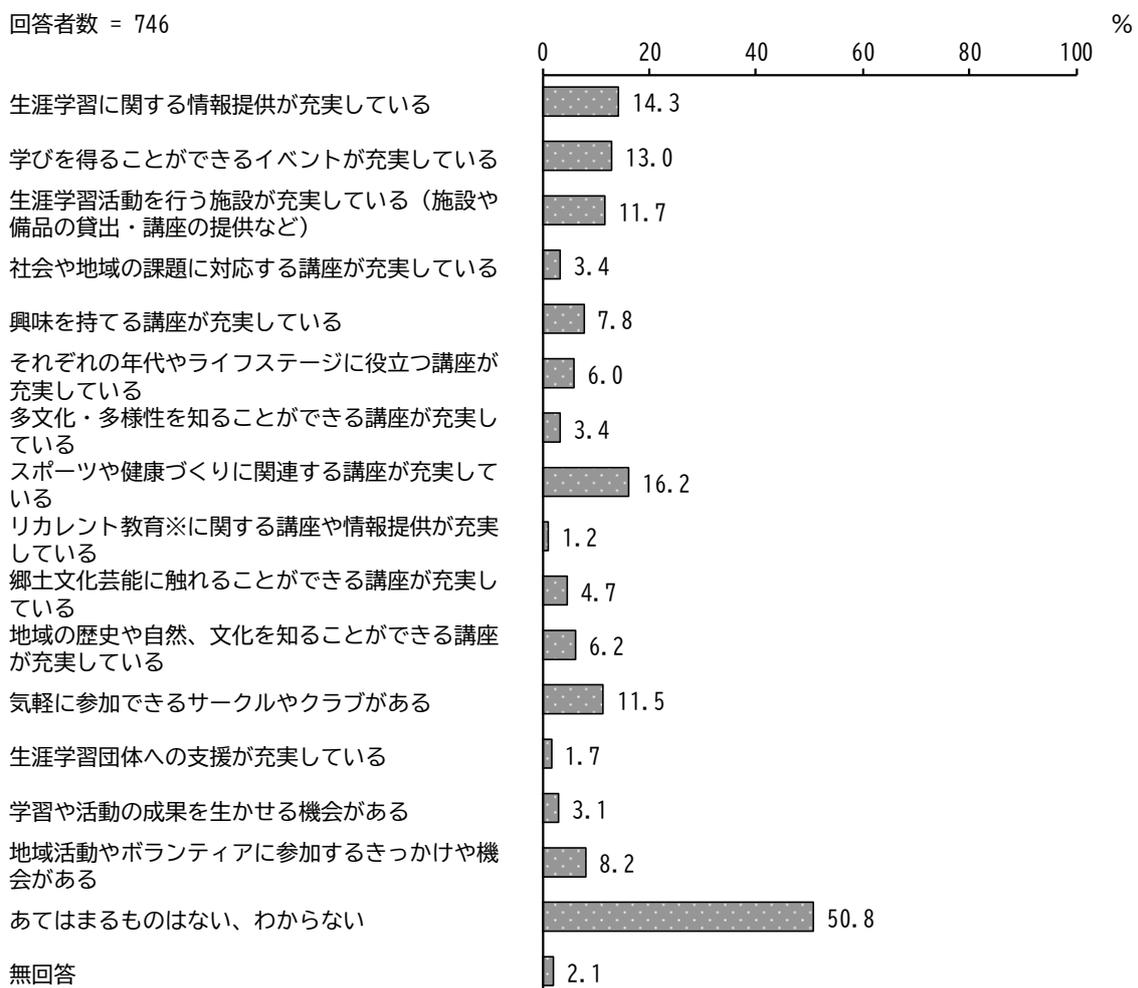
「強く感じている」「どちらかといえば感じている」を合わせた“感じている”の割合が73.5%、「あまり感じていない」「全く感じていない」を合わせた“感じていない”の割合が25.7%となっています。令和2年度調査と比較すると、“感じていない”の割合が増加しています。



問 現在の厚木市の生涯学習に関する環境について、あてはまると思うものをお答えください。(複数選択可)

「スポーツや健康づくりに関連する講座が充実している」の割合が16.2%と最も高く、次いで「生涯学習に関する情報提供が充実している」の割合が14.3%、「学びを得ることができるイベントが充実している」の割合が13.0%となっています。

回答者数 = 746

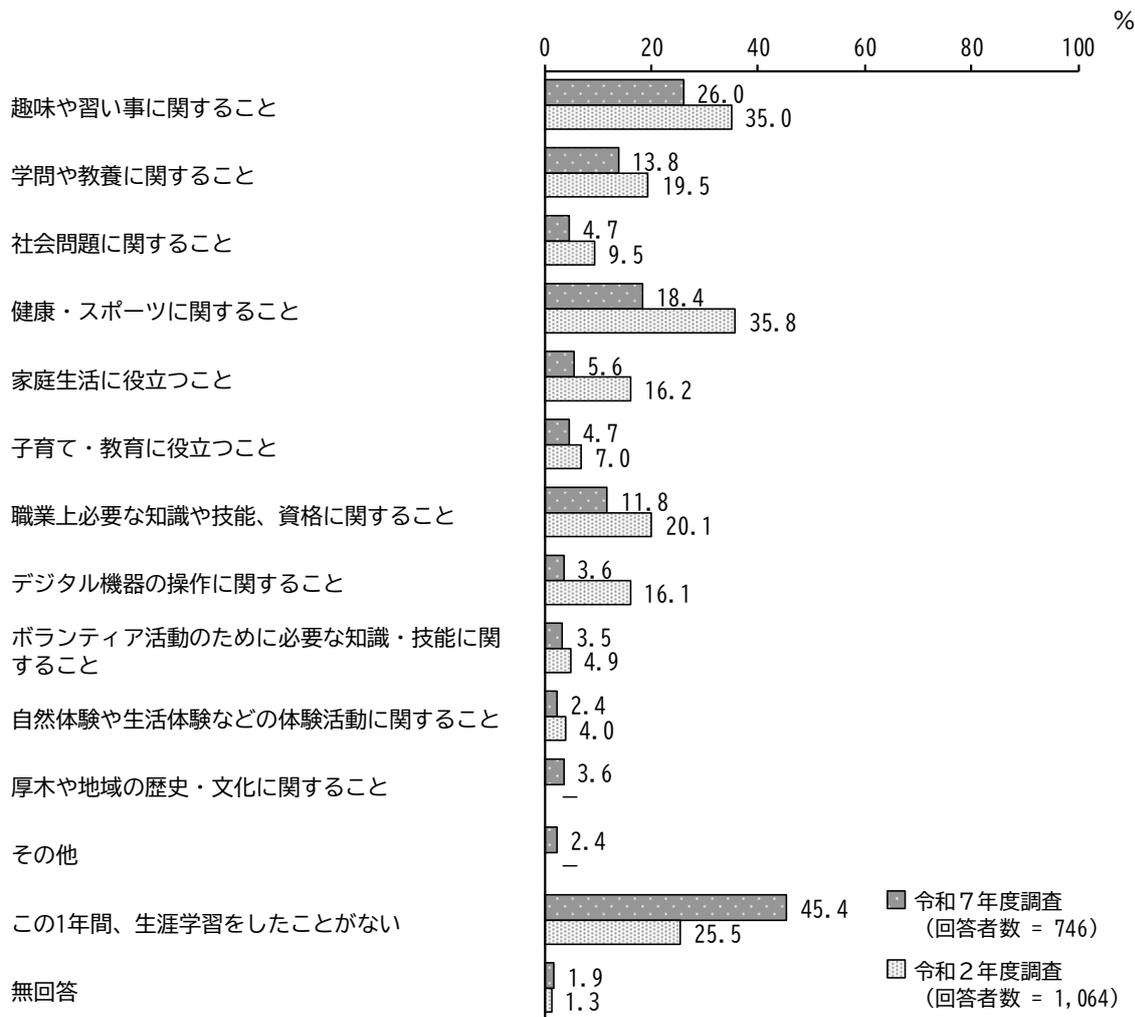


3 生涯学習活動について

問 1年くらいの中に、どのような分野で生涯学習活動を行いましたか。(複数選択可)

「この1年間、生涯学習をしたことがない」の割合が45.4%と最も高く、次いで「趣味や習い事に関すること」の割合が26.0%、「健康・スポーツに関すること」の割合が18.4%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「この1年間、生涯学習をしたことがない」の割合が増加しています。一方、「趣味や習い事に関すること」「学問や教養に関すること」「健康・スポーツに関すること」「家庭生活に役立つこと」「職業上必要な知識や技能、資格に関すること」「デジタル機器の操作に関すること」の割合が減少しています。

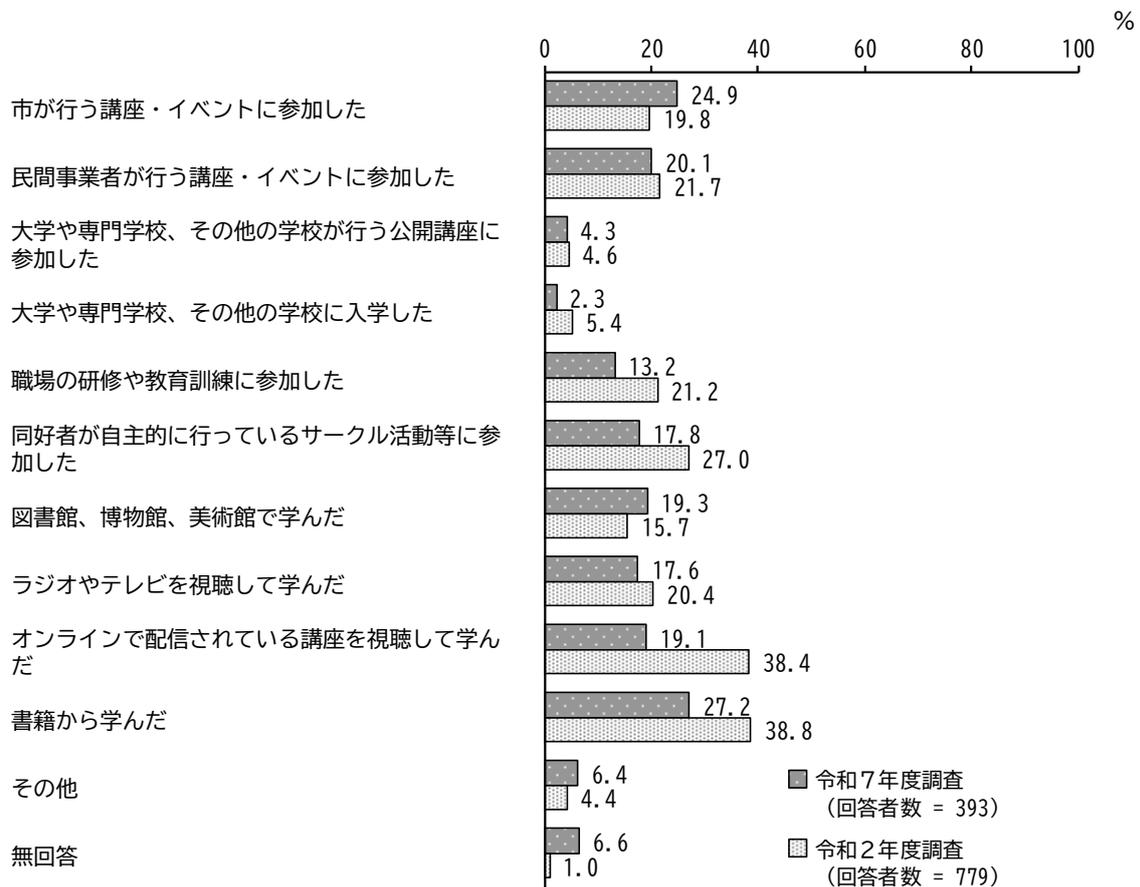


※令和2年度調査では、「趣味や習い事に関すること」が「趣味的なもの(音楽・美術・華道・舞踊・書道・レクリエーション活動など)」、「学問や教養に関すること」が「教養的なもの(文学・歴史・科学・語学など)」、「社会問題に関すること」が「社会問題に関するもの(社会・時事・国際・環境・エネルギーなど)」、「健康・スポーツに関すること」が「健康・スポーツ(健康法・医学・栄養・ジョギング・水泳など)」、「家庭生活に役立つこと」が「家庭生活に役立つ技能(料理・洋裁・和裁・編み物など)」、「子育て・教育に役立つこと」が「子育て・教育に役立つもの(家庭教育・幼児教育・教育問題など)」、「職業上必要な知識や技能、資格に関すること」が「職業上必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や、資格の取得など)」、「デジタル機器の操作に関すること」が「情報端末やインターネットに関すること」となっており、「厚木や地域の歴史・文化に関すること」、「その他」がありませんでした。

問 どのような方法で生涯学習に取り組みましたか。(複数選択可)

「書籍から学んだ」の割合が 27.2%と最も高く、次いで「市が行う講座・イベントに参加した」の割合が 24.9%、「民間事業者が行う講座・イベントに参加した」の割合が 20.1%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「市が行う講座・イベントに参加した」の割合が増加しています。一方、「職場の研修や教育訓練に参加した」「同好者が自主的に行っているサークル活動等に参加した」「オンラインで配信されている講座を視聴して学んだ」「書籍から学んだ」の割合が減少しています。

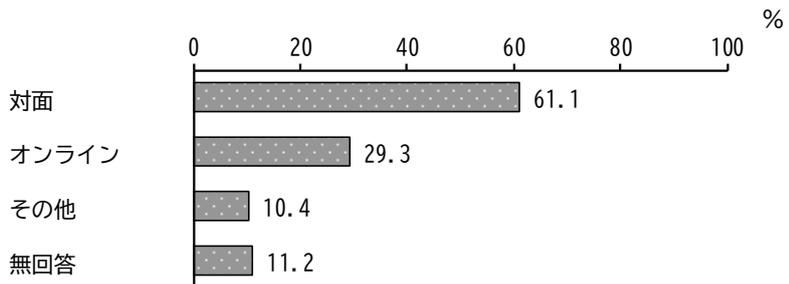


※令和2年度調査では、「市が行う講座・イベントに参加した」が「あつぎ市民交流プラザ（アミュー）や南毛利学習支援センター、公民館、スポーツ施設などの公の機関における講座や教室」、「民間事業者が行う講座・イベントに参加した」が「カルチャーセンターやスポーツクラブなど、民間の講座や教室、通信教育」、「大学や専門学校、その他の学校が行う公開講座に参加した」が「学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の公開講座や教室」、「大学や専門学校、その他の学校に入学した」が「学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の正規課程」、「職場の研修や教育訓練に参加した」が「職場の教育、研修」、「同好者が自主的に行っているサークル活動等に参加した」が「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」、「図書館、博物館、美術館で学んだ」が「図書館、博物館、美術館」、「ラジオやテレビを視聴して学んだ」が「ラジオやテレビ」、「オンラインで配信されている講座を視聴して学んだ」が「情報端末やインターネット」、「書籍から学んだ」が「自宅での学習活動（書籍など）」となっていました。

問 どのような形態で生涯学習に取り組みましたか。(複数選択可)

「対面」の割合が61.1%、「オンライン」の割合が29.3%となっています。

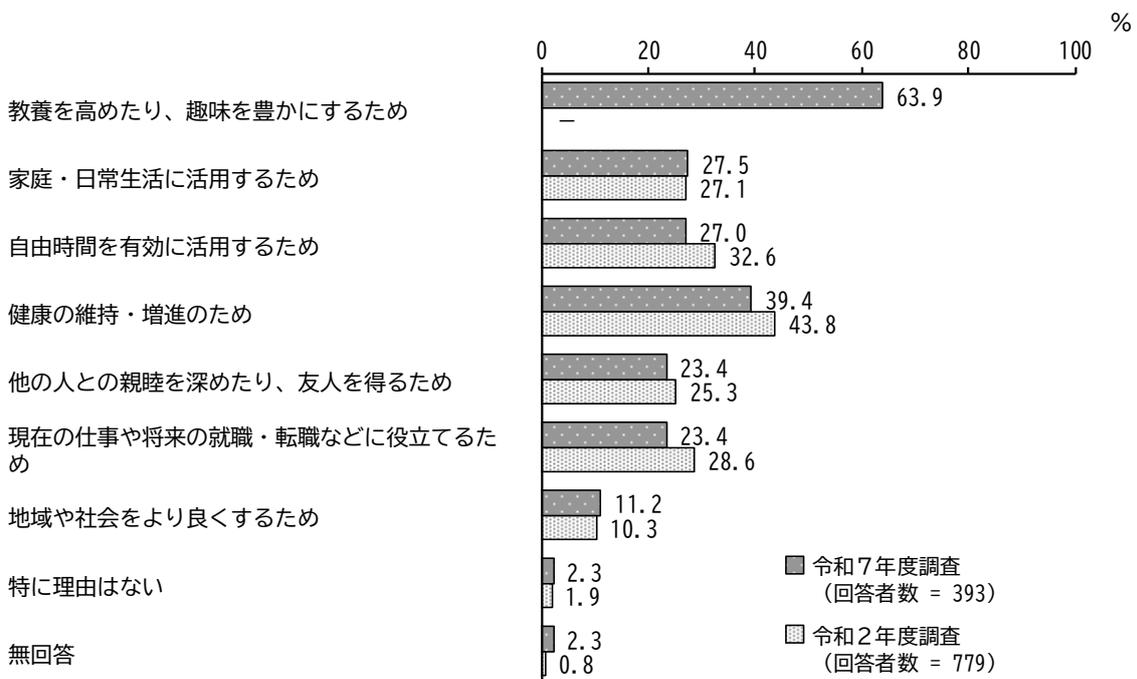
回答者数 = 393



問 生涯学習に取り組む理由は何ですか。(複数選択可)

「教養を高めたり、趣味を豊かにするため」の割合が63.9%と最も高く、次いで「健康の維持・増進のため」の割合が39.4%、「家庭・日常生活に活用するため」の割合が27.5%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「自由時間を有効に活用するため」「現在の仕事や将来の就職・転職などに役立てるため」の割合が減少しています。

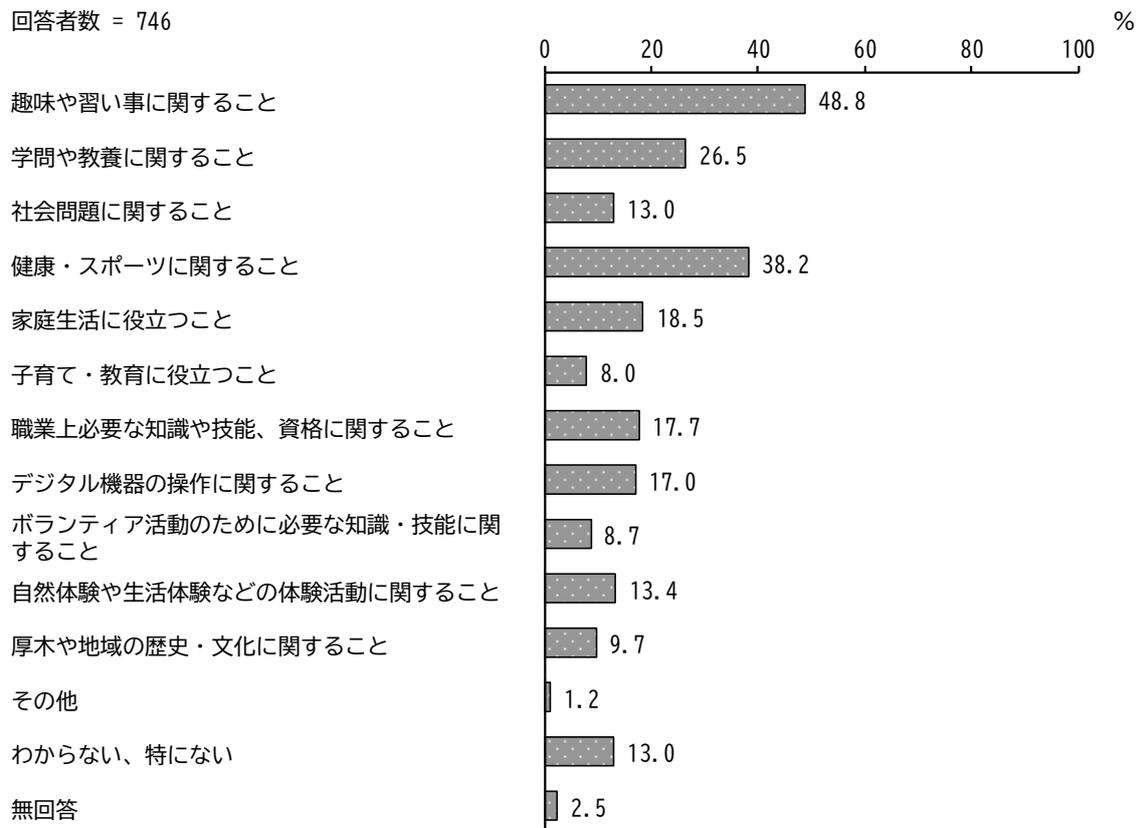


※令和2年度調査では、「教養を高めたり、趣味を豊かにするため」がありませんでした。

問 今後学んでみたいと思う分野は何ですか。(複数選択可)

「趣味や習い事に関すること」の割合が48.8%と最も高く、次いで「健康・スポーツに関すること」の割合が38.2%、「学問や教養に関すること」の割合が26.5%となっています。

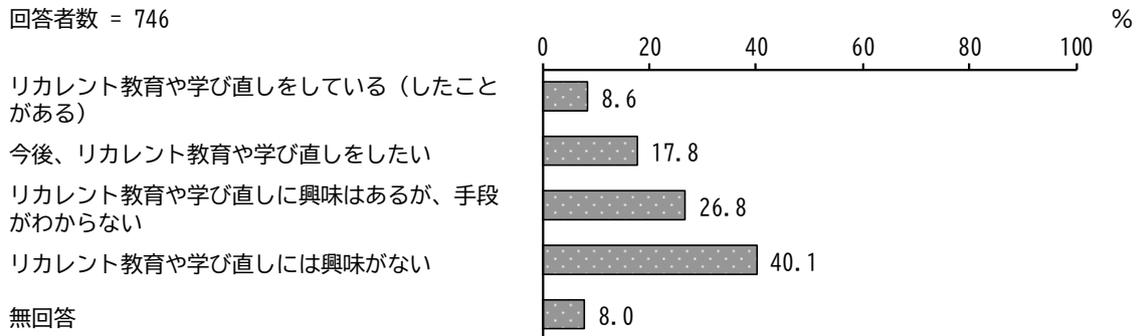
回答者数 = 746



問 「人生100年時代」と言われるなかで、リカレント教育や社会人の学び直しが注目されていますが、リカレント教育や社会人の学び直しをしたいと思いますか。(複数選択可)

「リカレント教育や学び直しには興味がない」の割合が40.1%と最も高く、次いで「リカレント教育や学び直しに興味はあるが、手段がわからない」の割合が26.8%、「今後、リカレント教育や学び直しをしたい」の割合が17.8%となっています。

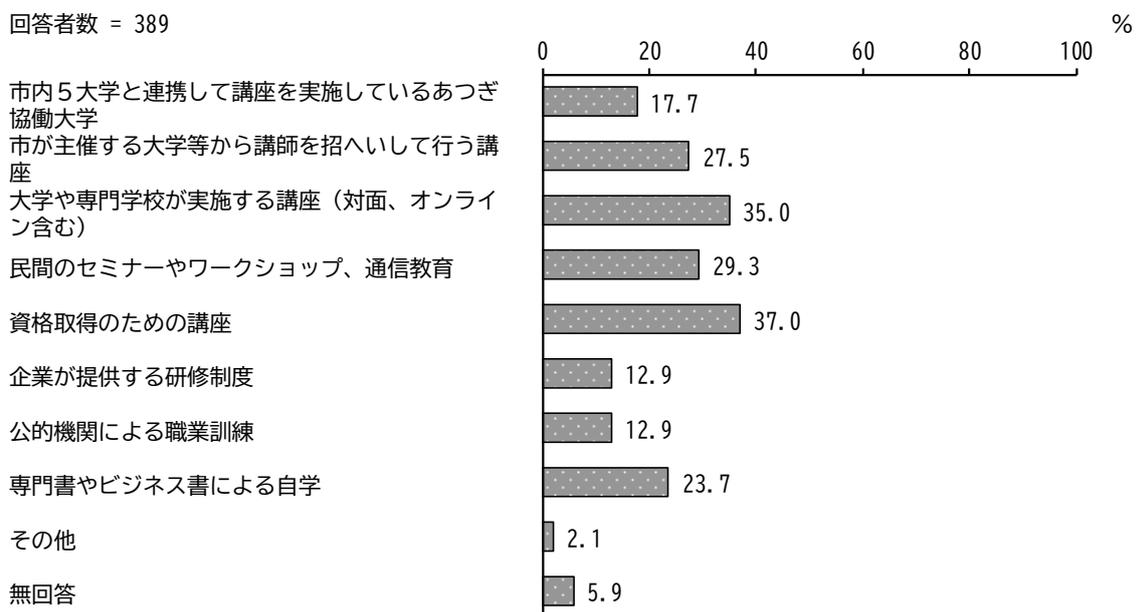
回答者数 = 746



問 どのような方法で、リカレント教育や社会人の学び直しをしたいと思いますか。(複数選択可)

「資格取得のための講座」の割合が37.0%と最も高く、次いで「大学や専門学校が実施する講座(対面、オンライン含む)」の割合が35.0%、「民間のセミナーやワークショップ、通信教育」の割合が29.3%となっています。

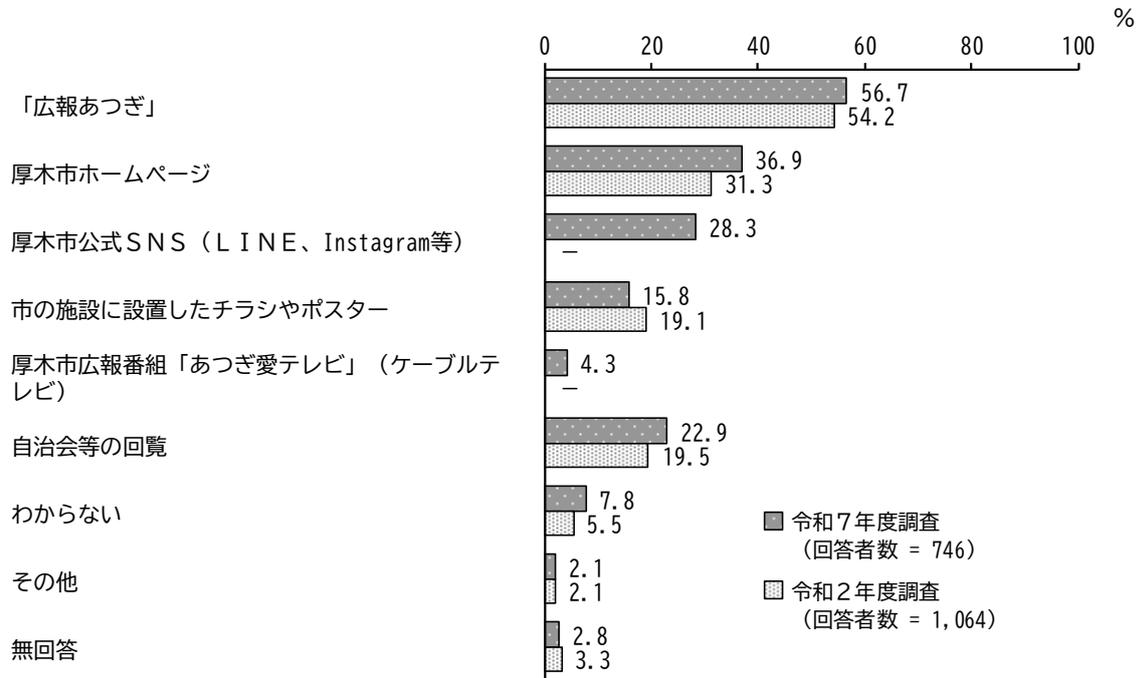
回答者数 = 389



問 市が行う講座等の情報をどのような方法で得られたら便利だと思いますか。
(複数選択可)

「「広報あつぎ」」の割合が56.7%と最も高く、次いで「厚木市ホームページ」の割合が36.9%、「厚木市公式SNS（LINE、Instagram等）」の割合が28.3%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「厚木市ホームページ」の割合が増加しています。

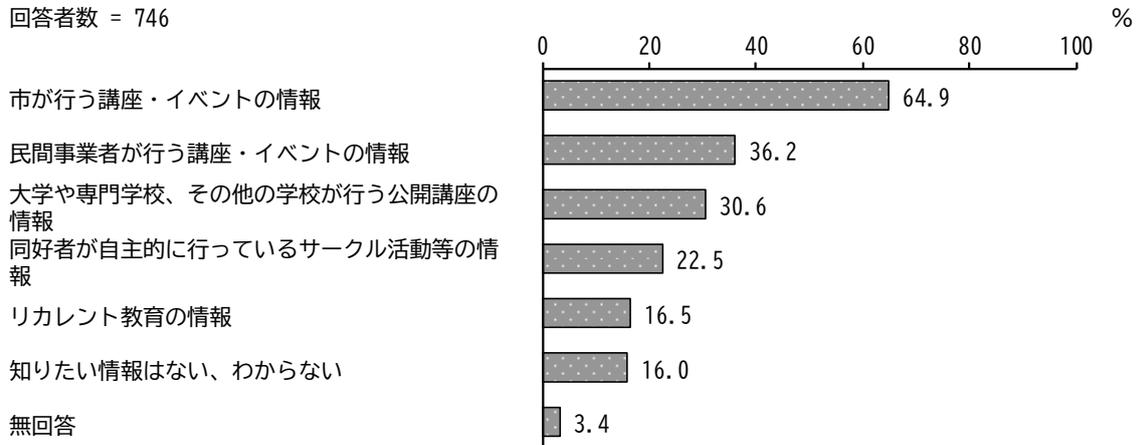


※令和2年度調査では、「厚木市公式SNS（LINE、Instagram等）」、「厚木市広報番組「あつぎ愛テレビ」(ケーブルテレビ)」がありませんでした。

問 あなたは、生涯学習に関して、どのような情報を知りたいと思いますか。
(複数選択可)

「市が行う講座・イベントの情報」の割合が 64.9%と最も高く、次いで「民間事業者が行う講座・イベントの情報」の割合が 36.2%、「大学や専門学校、その他の学校が行う公開講座の情報」の割合が 30.6%となっています。

回答者数 = 746

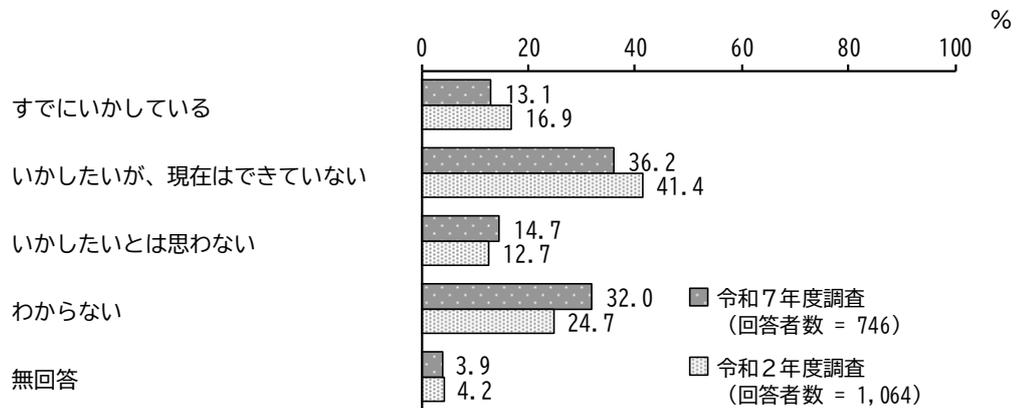


4 生涯学習の地域・社会活用について

問 あなたは、生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を、地域や社会での活動にいかしていきたいと思いませんか。(1つを選択)

「すでにかしている」の割合が13.1%、「いかしたいが、現在はできていない」の割合が36.2%、「いかしたいとは思わない」の割合が14.7%となっています。

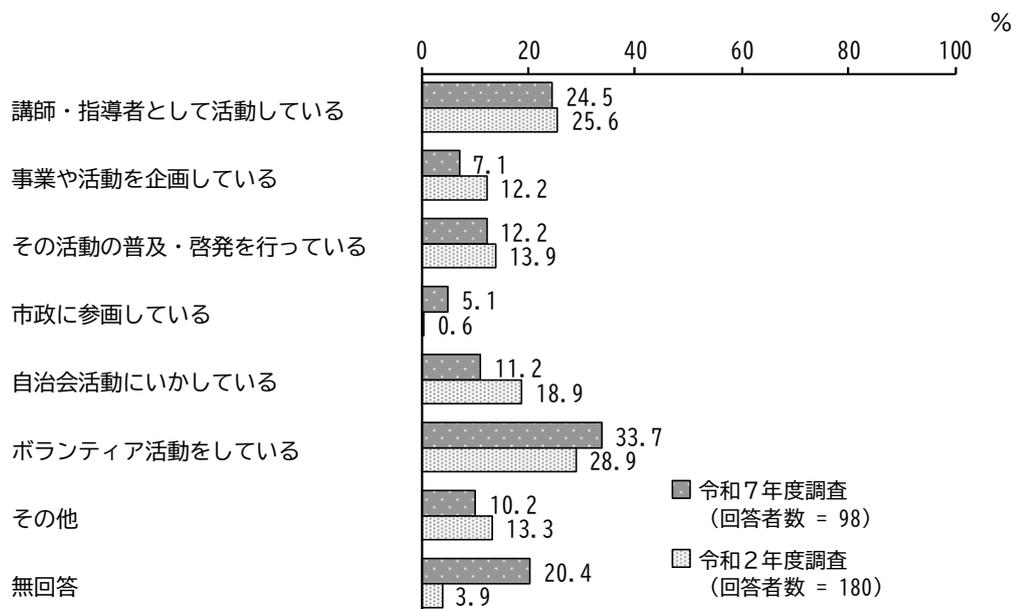
令和2年度調査と比較すると、「いかしたいが、現在はできていない」の割合が減少しています。



問 生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を、地域や社会でのどのような活動にいかしていますか。(複数選択可)

「ボランティア活動をしている」の割合が33.7%と最も高く、次いで「講師・指導者として活動している」の割合が24.5%、「その活動の普及・啓発を行っている」の割合が12.2%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「事業や活動を企画している」「自治会活動にかしている」の割合が減少しています。

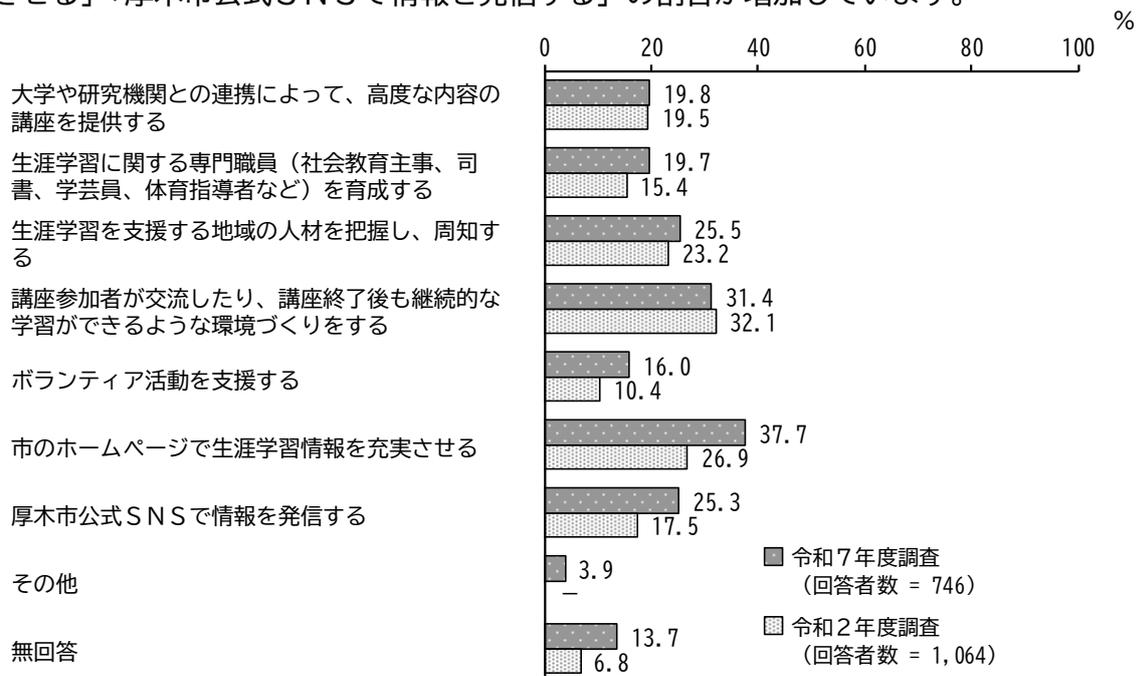


5 市の施策について

問 あなたは、生涯学習活動をより盛んにしていくために、厚木市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数選択可）

「市のホームページで生涯学習情報を充実させる」の割合が 37.7%と最も高く、次いで「講座参加者が交流したり、講座終了後も継続的な学習ができるような環境づくりをする」の割合が 31.4%、「生涯学習を支援する地域の人材を把握し、周知する」の割合が 25.5%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「ボランティア活動を支援する」「市のホームページで生涯学習情報を充実させる」「厚木市公式SNSで情報を発信する」の割合が増加しています。



※令和2年度調査では、「ボランティア活動を支援する」が「社会教育関係団体、青少年団体などのボランティア活動を支援する」、「厚木市公式SNSで情報を発信する」が「Facebook（フェイスブック）や twitter（ツイッター）などの SNS（ソーシャルネットワーキング）で情報を発信する」となっており、「その他」がありませんでした。

6 自由意見

問 厚木市生涯学習推進計画の策定に伴い、御意見等がございましたら、御記入ください。

カテゴリ名	件数
講座内容・プログラムの拡充	35
広報・情報提供の改善	21
参加環境の改善	19
高齢者向けの参加困難・環境整備	19
交通・アクセスの改善	8
ボランティア活動の推進	8
オンライン・通信教育の充実	8
子育て支援・多世代交流	6
行政運営への批判／透明性・予算面の要求	5
その他	6

IV 調査結果のまとめ

1 小中学生調査

(1) 生涯学習の認知度について

○生涯学習という言葉の認知度について、「あなたは『生涯学習』という言葉を知っていたか。」との設問に、小学生の89.4%、中学生の91.6%が「知らなかった」と回答したことから、小・中学生の大部分が「生涯学習」という言葉を認知していない状況です。今後は、学年に応じたやさしい説明や授業・行事と連動した周知、掲示や動画、保護者への案内、多様な方法で継続的に伝える取り組みの充実が求められます。

(2) 生涯学習活動の実施状況について

○言葉の認知度は低かったものの、「ここ1年くらいの間に学校以外で、あなたはどのようなことを学びましたか。」の設問に対し、小学生ではスポーツ(60.7%)、英語(28.4%)、中学生では学習塾(55.5%)、スポーツ(42.0%)など、回答者のうち小学生の89.4%、中学生の84.2%が、学校以外でも学ぶ機会を得ていることがわかりました。今後は、成長段階に応じた体験の機会と学びを支える環境を整え、両立しやすい時間設定や情報提供が求められます。

(3) 生涯学習活動に取り組む理由について

○生涯学習活動に取り組む理由について、小学生は「楽しいから」が多く、次いで「将来役に立つと思うから」が続きます。中学生は「将来役に立つと思うから」が中心で、次いで「楽しいから」、「人にすすめられたから」となっています。今後は、学年に応じて興味を広げる体験と将来像につながる学びを両立させ、保護者や友人からの働きかけも生かす情報提供の充実が求められます。

(4) 今後の生涯学習活動について

○今後、学校以外で学んでみたいと思うことについて、小学生では「スポーツ」(31.7%)、「絵」(24.9%)、「プログラミング」(19.5%)が上位を占めています。中学生は「スポーツ」(32.6%)、「音楽」(18.1%)、「英語」(15.4%)、「学習塾」(14.8%)がと上位を占めていますが、一方で「学んでみたいことはない」と回答した割合も一定数ありました。(小学生14.4%、中学生20.0%)今後は、学校や地域で継続的に参加しやすい取り組みが求められます。

(5) 市が行う講座情報について

○市が行う講座情報をどのような方法で得られたら便利かという質問について、「厚木市ホームページ」が多く、次いで「厚木市公式SNS(LINE、Instagramなど)」、「広報あつぎ」となっています。今後は、年齢や利用環境に応じた様々な手段、見つけやすい掲載やタイムリーな更新、画像や動画でのわかりやすい伝え方、紙面での配布も含めた情報提供の充実が求められます。

2 市民調査

(1) 生涯学習について

○生涯学習について、多くの市民が「趣味や教養を高めること」(60.2%)、「生活を楽しみ、心を豊かにすること」(52.9%)といったイメージを持っています。また、「あなたは日頃から生涯学習の必要性を感じていますか」の設問に対し、「強く感じている」「どちらかといえば感じている」と回答した割合の合計は73.5%と高い割合になりましたが、一方で、参加率は減少傾向にあり、「1年くらいの間に、どのような分野で生涯学習活動を行いましたか」の設問に「この1年間生涯学習をしたことがない」と回答した割合が45.4%で、令和2年度調査と比較し増加しています。特に男性を中心に生涯学習の必要性を感じていない割合も一定数あり、今後、は幅広い属性に対応した学びの場づくりや情報提供の充実が求められます。

(2) 生涯学習活動について

○生涯学習活動について、「今後学んでみたいと思う分野は何ですか」と「1年くらいの間に、どのような分野で生涯学習活動を行いましたか」の回答を比較すると、「趣味や習い事に関すること」について、今後学びたい(48.8%)に対し、1年くらいの間に行った生涯学習では(26.6%)、「健康・スポーツに関すること」について、今後学びたい(38.2%)に対し、1年くらいの間に行った生涯学習では(18.4%)など、学びたい気持ちと実際の活動に開きがあることから、ニーズに応じた支援が求められます。

○生涯学習をしていない理由について、「仕事が忙しくて時間がない」の割合が40.4%と最も高く、次いで、「何を学習していいのかわからない」の割合が28.9%、「必要な情報(内容・時間・場所・費用など)が入手しにくい」割合が21.2%となっています。令和2年度調査と比較すると、「何を学習していいのかわからない」の割合が増加しています。今後は多忙な社会人のニーズに応じた支援や便利な情報提供方法の強化が求められます。

(3) 生涯学習の地域・社会活用について

○生涯学習の地域・社会活用について、身につけた知識や技能をいかしたいと考える人は多い一方で、「いかしたいが現在はできていない」(36.2%)という人が最も多い状況です。特に、知識・技能を地域活動にいかすに当たって「いかすことができるまでの段階に達していない」(54.8%)、「時間的余裕がない」(34.4%)、「身近でいかせる活動や場所を見つけられない」(34.4%)「どのような活動にいかすことができるのかわからない」(25.6%)ことが主な課題とされています。今後、身につけた知識や技能を地域や社会で活用できる具体的な場や仕組みの整備が求められています。

(4) 市の施策について

○市の施策について、生涯学習活動を盛んにするために、市民からは「市のホームページで生涯学習情報を充実させる」(37.7%)や「講座参加者が交流したり、講座終了後も継続的な学習を行える環境づくりをする」(31.4%)ことに力を入れるべきとの意見が多く挙がりました。特に、様々な世代に向けたインターネットを活用した情報発信や、地域人材の支援が今後の課題とされています。

(5) 自由意見

- 自由意見では、「講座内容・プログラムの拡充」、「広報・情報提供の改善」が特に多く挙げられました。他にも「高齢者や子育て世代向けの環境整備」や「オンライン・通信教育充実」など、多様な意見が寄せられていることから、市民の関心や期待が高いことがうかがえ、今後、市民の声を反映した柔軟な施策の展開が求められます。

厚木市生涯学習推進計画に係る
意向調査結果報告書（概要版）

発行年月：令和8年1月

発行：厚木市 市民交流部 生涯学習課 生涯学習係
〒243-8511 厚木市中町 3-17-17

電話：(046)225-2512